

 JWRC 水道ホットニュース	(財)水道技術研究センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-1 虎ノ門電気ビル2F TEL 03-3597-0214, FAX 03-3597-0215 E-mail jwrchot@jwrc-net.or.jp URL http://www.jwrc-net.or.jp
---	--

“TECHNEAU” について (その2)

3. 「TECHNEAU」プロジェクトの研究報告書

「TECHNEAU」プロジェクトの研究成果は、順次、研究報告書として「TECHNEAU ホームページ」に掲載され、無料でダウンロードできるようになっている。

(注) <http://www.techneau.org/index.php?id=120>

これまで、ホームページに掲載されている研究報告書の研究領域別タイトル、発行年月及びページ数は以下のとおりである。

[研究領域1：システムの再考]

(注)「総ページ数」は、表紙等を含む。

番号	タイトル(仮訳)	発行年月	総ページ数
D1.1.1	トレンドレポート:南アフリカ/サブサハラアフリカのトレンドレポート	2006年11月	32
D1.1.2	トレンドレポート:水逼迫地域のトレンドレポート	2006年11月	49
D1.1.3	トレンドレポート:東欧諸国のトレンドレポート(バルチック諸国の例)	2006年11月	63
D1.1.4	トレンドレポート:南欧諸国のトレンドレポート(ポルトガルのケース)	2006年11月	61
D1.1.5b	トレンドレポート:中欧諸国のトレンドレポート(ドイツ/スイス)	2006年11月	83
D1.1.6a	スペイン:TECHNEAU ケーススタディ(フェーズⅠ)－気候変動－	2007年3月	118
D1.1.6b	スペイン:TECHNEAU ケーススタディ(フェーズⅡ)－気候変動－	2007年3月	60
D1.1.6c	欧州の水資源における気候変動の長期的影響(ルーマニアの事例研究)	2007年3月	112
D1.1.7	水循環に影響を与える世界的なトレンド:水の世界における変化の動き	2007年9月	45
D1.1.9	トレンドレポート:将来のリスクに関するトレンドレポート	2007年2月	27
D1.1.11	上水道セクターの組織・財政モデル:傾向と変化に関する有用な情報のレビュー	2007年1月	31
D1.1.12	消費者のトレンドに関するレポート:欧州における横断的な課題	2006年12月	44

D1.1.13	既存の先見的研究:文献レビュー	2008年8月	26
D1.1.14	トレンドレポート:オランダ	2006年11月	113
D1.2.1	適応性のある戦略:地域条件を踏まえた統合的アプローチ及び適応性	2008年2月	33

[研究領域2] 浄水技術 (Treatment Technology)

番号	タイトル(仮訳)	発行年月	総ページ数
D2.1.2	RO 脱塩に関する最新技術レポート	—	—
D2.1.2.b	海水 RO 向けの新プロトタイププレフィルタ:ベンチスケール試験の手順	2007年1月	9
D2.3.1.1	ナノろ過による無電荷微小有機汚染物質除去予測の準定量的手法	—	—
D2.3.1.2	水道水源における微量汚染物質のナノろ過保持モデル	—	—
D2.3.1.3	表流水からの医薬品由来化合物のナノろ過/粒状活性炭処理の間におけるナノろ過による除去及び除去の効率性の評価における静電相互作用の影響	—	—
D2.3.2	セラミック膜による精密ろ過(MF)の凝集前処理	2007年9月	81
D2.3.2.1	表流水処理における最初の処理ステップとしてのセラミック精密ろ過	—	—
D2.3.2.2	表流水処理の間におけるセラミック膜による粒子状物質除去:中間レポート	2008年9月	28
D2.3.2.3	セラミック精密ろ過(MF)と超微粉碎化 PAC の併用	2008年12月	48
D2.3.3.5a	セラミック膜:ろ過逆洗水処理の最適運転条件に向けた個別事例手順	2007年5月	25
D2.3.3.5b	ろ過逆洗水処理へのセラミック膜の適用	2008年1月	22
D2.4.4.1	紫外線消毒及び紫外線/過酸化水素による酸化:副生成物の形成と制御	2007年5月	31
D2.4.4.2/3	汚染物質制御のためのフェントンプロセス:2種類の水を用いたOHラジカル形成研究	2008年7月	26
D2.4.2.3	様々な水におけるオゾン処理と促進酸化処理プロセスの比較及び酸化効率評価	(—)	(—)
D2.4.2.5	浄水処理におけるオゾン処理と塩素処理による微量汚染物質除去のモデル化(実験報告)	2008年12月	41
D2.4.2.6	浄水処理におけるオゾン処理と塩素処理による微量汚染物質除去のモデル化(文献調査報告)	2007年6月	112
D2.5.3	分散型水供給のための膜を基礎とした製品に関する国際マーケット調査	2008年3月	47
D2.5.4	分散型水供給と膜プロセス(ワークショップ)	2007年10月	15
D2.5.5	分散型水供給に向けた小型ユニットの実証研究の準備	2007年12月	27
D2.5.11	分散型水供給:国際ネットワークと TECHNEAU の活動—ワークショップ	2008年6月	54

[研究領域3] 監視制御技術 (Monitoring And Control Technologies)

番号	タイトル(仮訳)	発行年月	総ページ数
D3.1.1/2	水道水質の監視制御: 主要パラメータの選定	2007年2月	23
D3.1.3	水道水質の監視制御: 主要パラメータの監視技術のインベントリーと評価	2008年10月	306
D3.2.1	「統合パラメータ」を算定するための紫外可視分光光度計(UV-Vis) 監視ステーション	2007年1月	13
D3.2.4	多量の水での微生物濃縮手法	2007年4月	30
D3.2.5	天然水における新たな藻類毒(溶解状態)の HPLC に基づく分析のための標準作業手順書(案)	2008年2月	24
D3.2.7	紫外可視分光法に基づいて再設計された監視ステーション	2007年10月	14
D3.3.1	同化性有機炭素(AOC)測定のための流動細胞計測法	2007年6月	20
D3.3.2	蛍光 in situ ハイブリダイゼーション法(FISH)を併用した流動細胞計測法を用いた水道水中の微生物個体群構成の迅速評価のための定量法のフィージビリティレポート	2007年6月	12
D3.3.4	浄水処理における膜バイオフィアリングの確認と定量化のためのツールボックスの開発	2007年6月	84
D3.3.5	水道水における流動細胞計測法を用いた総合的なウイルス検知の可能性評価	2007年6月	12
D3.3.7	流動細胞計測法(FCM)を用いた水道水における自然微生物集団の総細胞濃度の測定手順	2007年6月	15
D3.3.8	流動細胞計測法を用いた培養法に依存しない生死判別法の評価	2008年6月	24
D3.3.9	天然の同化性有機炭素における病原性細菌の成長に関する報告	2008年6月	27
D3.3.10	異なる TECHNEAU パートナーによって用いられた AOC 法の比較	2008年6月	21
D3.3.12	浄水処理における膜バイオフィアリングの確認と定量化のためのツールボックスの開発(検証レポート)	2008年6月	34
D3.3.13	共焦点レーザー顕微鏡及び画像分析を用いた中空糸膜のバイオフィアリングの評価	—	—
D3.4.6	臭気試験: 人間による審査と電子試験の比較	2007年11月	103
D3.4.12	ToxProtect64 Fish モニターによる水道水中の毒素の監視	2008年3月	10
D3.5.1	バイオフィルム中の病原体検出のための FISH 法の開発	2007年3月	47
D3.5.2	「統合パラメータ」を算定するための紫外可視分光光度計(UV-Vis) 監視ステーション	2008年6月	17
D3.5.3	FISH 技術を用いた大腸菌及びエロモナスハイドロフィアの数及び存続可能性の検知	2008年4月	34
D3.5.5	携帯型監視ステーション	2008年9月	14

D3.6.8.1	水道水のバイオフィルムにおける大腸菌の消長: FISH 技術の適用	2008 年 4 月	37
D3.6.8.2	浄水施設及び配水ネットワークのバイオフィルムにおける大腸菌の成り行き	2008 年 4 月	32

[研究領域 4] リスク評価・リスク管理 (Risk Assessment And Risk Management)

番号	タイトル(仮訳)	発行年月	総ページ数
D4.1.1/2	水道システムのハザードの判別と記載: 今日のハザードと将来あり得るハザードの一覧	2007 年 2 月	73
D4.1.3 /D4.2.1/2/3	水安全計画における統合的リスク管理のための一般的な枠組み及び手法	2007 年 6 月	107
D4.1.5a	リスク評価のケーススタディ: ゴテボルグ、スウェーデン	2008 年 12 月	43
D4.1.5b	リスク評価のケーススタディ: ベルゲン、ノルウェー	2009 年 1 月	24
D4.1.5.d	リスク評価のケーススタディ: フライブルグ-Ebnet	2008 年 9 月	57
D4.1.5e	リスク評価のケーススタディ: プレズニチェ、チェコ共和国	2008 年 9 月	41

[研究領域 5] 維持管理 (Operation And Maintenance)

番号	タイトル(仮訳)	発行年月	総ページ数
D5.1.2	水道における運転費用便益分析の枠組み	2008 年 3 月	27
D5.2.1	統合水資源管理のための管理帯水層涵養 (MAR) の背景となる作業及びデータ統合の結果	2007 年 6 月	64
D5.2.2	インド及びドイツの水道水基準にリストされた無機物及び物理化学的パラメータ	2008 年 5 月	44
D5.2.6	インド・デリーにおける河川堤防ろ過 (RBF) サイトにおける病原微生物及び微量有機化合物の存在及び成り行き	2008 年 12 月	57
D5.3.1a	高度化された凝集による浄水処理: 運転状況及び最適化の課題	2006 年 12 月	110
D5.3.1b	浄水処理におけるオゾン処理及び生物ろ過: 運転状況及び最適化の課題	2006 年 12 月	80
D5.3.2	高度化凝集及びオゾン-生物ろ過による浄水処理: 最適運転手順及び試行に関する中間報告	2007 年 12 月	129
D5.3.4a	水道水の生産における前凝集を用いた限外ろ過: 文献レビュー	2006 年 11 月	84
D5.3.4b	浄水処理におけるナノろ過: 文献レビュー	2006 年 12 月	54
D5.3.5a	水道水の生産における前凝集を用いた限外ろ過: 運転戦略	2007 年 6 月	65
D5.3.5b	フミン質除去のためのナノろ過: 運転戦略に関する調査	2008 年 2 月	18
D5.3.6a	浄水処理における限外ろ過及びナノろ過: ワークショップ	—	—

D5.3.6b	病原体に対する浄水処理バリアとしてのナノろ過	2008年12月	13
D5.3.7a	プロセスシミュレータのためのインプット	2008年8月	10
D5.3.8	浄水処理における臭気物質形成及び前駆物質に係る塩素処理の影響	2007年2月	61
D5.3.10	アジアからの粒状活性炭の逆洗特性	2006年12月	18
D5.4.1	浄水処理モデル:最先端技術のレビュー	2006年5月	22
D5.4.1a	浄水処理シミュレータに関する国際ワークショップ:レビュー	—	—
D5.4.2	浄水処理モデル:統合のための方法論	2006年8月	17
D5.4.3	モデリングフレームワークの概念設計	2007年6月	30
D5.4.4	TECHNEAU 浄水処理シミュレータ:モデリングフレームワーク(バージョン 1.0)	2008年9月	65
D5.5.1/2	管路ネットワークにおける水質劣化問題に関係する粒子	2007年6月	64
D5.5.3	配水システムにおける堆積物の形成に関するデータベース	2007年6月	16
D5.5.4	水道システムにおける細菌成長モデリングの方法論	2007年3月	63
D5.5.5	モニタリングパラメータ及び手法のレビュー及び選択	2006年6月	22
D5.5.9	水道水における単一培養のプランクトニック及びバイオフィルム成長(蛍光菌)のモデリング	2007年8月	28
D5.6.1/D5.6.2	操作方法及び維持計画に関する報告	2006年10月	114

[研究領域6] 消費者の受諾と信頼 (Consumer Acceptance And Trust)

番号	タイトル(仮訳)	発行年月	総ページ数
D6.1.1	消費者の信頼と信用の評価:水道事業体にふさわしい方法	2006年4月	30
D6.1.2	消費者の信頼と信用:概観	2007年1月	52
D6.1.6 / D6.2.6	関係者のインタビュー:最終報告	2008年6月	143
D6.2.1	消費者の好み:概観	2007年1月	51
D6.2.2	水道サービスに対する消費者の好みの評価:概観	2007年5月	48

[研究領域7] 統合、認証及び実証 (Integrate, Validate and Demonstrate)

番号	タイトル(仮訳)	発行年月	総ページ数
D7.5.1	リガ水道との最終消費者ワークショップ報告(ケーススタディ3)	2007年11月	70

[研究領域8] 普及及びトレーニング (Dissemination And Training)

番号	タイトル(仮訳)	発行年月	総ページ数
D8.1.1	SME ネットワークにおける有望な技術の詳細調査	2007年6月	55

(文責) センター常務理事兼技監 安藤 茂

配信先変更のご連絡等について

「JWRC水道ホットニュース」配信先の変更・追加・停止、その他ご意見、ご要望等がございましたら、会員様名、担当者様名、所属名、連絡先電話番号をご記入の上、下記までEメールにてご連絡をお願いいたします。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-1 虎ノ門電気ビル2F (財)水道技術研究センター ホットニュース担当

E-MAIL : jwrchot@jwrc-net.or.jp

TEL 03-3597-0214 FAX 03-3597-0215

また、ご連絡いただいた個人情報は、当センターからのお知らせの配信業務以外には一切使用いたしません。

水道ホットニュースのバックナンバーについて

水道ホットニュースのバックナンバー(第58号以降)は、下記アドレスでご覧になれます。

<http://www.jwrc-net.or.jp/hotnews/hotnews-h21.html>